

令和2年度 福井市の認定こども園、保育所等における質の向上のためのアクションプログラム vol.3

(園番号) No.746

(園名) 岡保こども園

カテゴリー	園での取り組み (具体的なアクション内容)	どのように (それを実現するための具体的な方法・手段)	取り組みのスケジュール	年度末達成度 (◎・○・△・×)	備考	
I 子どもの育ちを保障します	幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針等に基づき、福井の豊かな環境を生かした質の高い乳幼児の教育・保育を提供します	(1) 【子ども主体の保育・自然あふれる環境の中での保育】 ・子ども自ら遊びを見つけ、遊び込める人的、物的環境を整える ・一人ひとりの成長発達の実情を把握する ・子どもの興味、関心、欲求にあった活動を進める ・主体性のある子どもの保育に取り組む  ★ 自然との関わり ★ 砂、土、泥あそび 水、木でのあそび 動植物との触れ合い たけのこ山でのあそび でかでか山でのあそび	・園庭の整備…色々な種類の土を用意し必要に応じ補充する 毎朝、遊び出しやすいように土をほぐす（当番制にする） 遊びの状況、時期などによって、木、板、竹筒を出す ・たけのこ山、でかでか山の整備…専門の先生の指導のもと、年に1~2回職員・保護者の人たちと一緒に整備を行う（保護者会活動） ・週に1~2回はたけのこ山、でかでか山に出掛ける ・子どもたちは衣服の汚れを気にせず、存分に遊べるように泥んこ専用の服に着替えてから、園庭に出る ・保育者は、そっと子どもたちに寄り添い、子どもたちのつぶやきに耳を傾けたり、遊びの段階を把握したりしながら意欲的に遊び・生活に取り組めるようにする ・未満児・以上児に分かれて月案打ち合わせを行い、それぞれのクラスのねらいが年齢に合ったものかどうかを話し合ったり、共通理解をしたりしていく	《泥んこ遊び》 年間を通して取り組む  《たけのこ山での遊び》 年間を通して取り組む (熊出没時期は避ける)  《でかでか山での遊び》 年間を通して取り組む (熊出没時期は避ける)	(1) ○	・どんぐりの木など色々な気を植樹し、またクローバーの種をまいたり、園庭の工事を行い、緑を増やした。夏の間は、植えた木に朝晩水をまいたり、緑が安定するまでの間に園庭の使い方を話し合って決めたりして、より園庭について見直しをした。 ・以上児を中心に、でかでか山、たけのこ山に出かけて、山遊びの機会を継続的に持つようにした。 ・里山整備の機会を10月、2月の年2回行うことができた ・月案の打ち合わせを毎月、未満児・以上児に分かれて行った。また月初めに以上児と未満児のリーダーが集まって『リーダー会』を行い、園全体としての保育の共通理解が出来た。
		(2) 【教育・保育の質の向上につなげる自己評価】 ・年度末に職員の自己評価を行い、一年間の保育を客観的に振り返って現状を把握して改善し、教育・保育の向上につなげる	・自己評価は、2人1組で行い、自分で自己評価した後に相手にも評価してもらい互いに評価し合うことで、違う視点で自分を振り返り、改善に努める	・年1回	(2) ○	・12月に1年の振り返りを行い、3月に自己評価を2人1組で行った。自分で頑張った点を確認したり、他の人に違う視点で評価してもらうことで、自分の保育や仕事の姿勢に対する反省点や自信につながった。
		(3) 【きめ細やかな保育】 ・保育カウンセラーとの連携をとり、気がかりな子への対応について学ぶ カウンセラーの河村先生に来て頂く	・気がかりな子に対して『ふくいっ子ファイル』を記入し、その子の特性を理解したり、『育ちの支援計画シート』を作成したりする ・保育カウンセラーの先生に子どもの様子を見て頂き、専門の先生と全職員とでこれからの保育の指導、援助の手立てなどを話し合う	・年2回	(3) ◎	・2回の保育カウンセラー訪問での学びを保育に生かすことができた。 ・ふくいっ子ファイルを継続して使っているようにしたい。
		(4) 【子ども達の安全確保のための計画・マニュアルの作成】 ・保健・食育計画を作成する ・毎月、避難訓練を行い、避難の仕方を知る ・危険箇所点検を行い、子ども達の安全を守る	・保健・食育計画を作成し、保育の中に取り入れていくようにする ・職員間でマニュアルの共通理解をする ・避難訓練を行い、安全に避難する方法を知り、保育者の指示に従って避難する ・年3回危険箇所点検を行い、子ども達が安全に遊べるようにする	・避難訓練 年12回 ・危険箇所点検 年3回 (6月11月2~3回)	(4) ◎	・避難訓練では、その都度問題を話し合い、共通理解していくことが出来た。 ・毎月の職員会議の中で保健・食育計画を確認し合ったり、危険箇所や怪我を防止する為の確認を行うことが出来た。
保育者等の専門性及び資質の向上を図ります	(5) 【保育者の専門性の向上】 ・子どもの絵を通して 絵画の先生に来て頂き、職員の勉強会を行う ・自然との関わりを通して 視察研修に来られた他の園の先生たちと意見交換を交わす 自然との関わりを大切にしている県内外の園に視察に出向く 毎月、園内研修を行い、その時の問題点やこれからの学びになる議題について、解決策を話し合ったり学び合ったりする ・保育の反省を通して 毎日の昼礼時に、保育を振り返り、職員間で話し合いの場を持つ ・月初めにリーダー会を行い、各年齢の月案について話し合う ・園内リーダー・年齢別リーダー・係としての責任を持ち、組織的に保育や任務を推し進めていく	・年数回は子どもが描いた絵を全職員で見て、心の内面をさぐったり、今後の遊びや心の発達の手立てを考える ・園内研修で計画していく ・長谷光城先生に来て頂き園児の絵を見てもらい指導を受ける ・東京で行われる絵の展示会・研修会に参加する ・視察の後に、先生たちとの意見交換の時間を設け、日ごろの保育の悩みや今後の課題についてお互いに話し合う ・県内外に視察に行った後には、必ず園内研修の場で報告をする ・園内リーダーや園内研修担当が中心となって、園内研修の内容を検討し計画を立てて実施していく ・昼礼時その日の保育を振り返り、気付いたことや戸惑ったこと感激したことなどを保育者同士で伝え合い、他の保育者の意見を聞いたり園長のアドバイスを受ける ・リーダー会の中で、各学年の課題や問題点、悩みを表出し、園全体の課題や問題として考えていく ・各リーダーを中心として、それぞれが意見を出し合い保育について話し合ったり、実行に移したりしていけるようにする	年1回の講演会 ・定期的に先生に来て頂く ・申し出があった場合心良く受け入れる ・保育者は年1回は視察に行く ・毎月2回 ・年3回 ・毎日の昼礼時 ・毎月1回	(5) ○	・長谷先生に子どもの絵を見て頂き、絵から読み取れる内面や、自分達の保育の見直しが出来、保育に生かしていく事が出来た。 ・園内研修で、子どもの絵を見る日を決めたことで、子どもの心について保育者全員で話し合う時間がもて、日々の保育に生かしていくことが出来た。 ・若狭で行われた絵の研修会に参加し、他園の絵を見たり、情報を共有したりし、自園の保育を見直すよい機会となった。 ・リーダー会では、各年齢の具体的な活動内容や問題点を密に話し合うようにし、すぐに保育に生かしていくようにした。 また、話し合ったことは、参加していたリーダーが未満児・以上児全員の保育者に伝えて共通理解した。	
	(7) 【研修意欲を高め、保育者が積極的に研修に取り組む環境づくり】 ・保育者一人ひとりに必要な資質向上のための研修計画を作成し、実施する ・福井県幼児教育センターの研修に参加する	・保育者の経験年数や職務分担に応じた必要な資質向上のための研修に参加する ・園内リーダー・市町幼児教育アドバイザー養成研修に参加し、子どもの姿や事例から学びを見取っていく。また、園内研修に取り入れれたりながら、他の保育者にも伝えていく ・保育者がそれぞれに自分の保育を見せ合ったり、他の年齢の子ども遊びを見に行き、遊びの見取りを行う	・年間を通して	(6) (7) △	・コロナの影響で、園外研修が中止になることが多く、研修計画が思うように進まなかった。 ・新人の保育者の研修の一環として、保育の見せ合い、遊びの見取りを行った。他の年齢の保育や遊びをじっくり見ることで、お互いに発見や刺激があったが、継続して行うことができなかった。	

II 子育てライフを支援します	認定子ども園、保育所等を利用する保護者への支援の充実を図ります	(8) (9) 【保護者のこども園体験の実施】 ・お父さん、お母さんに都合の良い日にこども園に来ていただき一日子どもと一緒に過ごしてもらおう ・子どものことについて、園での様子を話したり、懇談会を行い、普段心配に思っていることや対応の仕方などを懇談して話し合う機会をもつ ・保護者に子育ての方法を具体的に知らせていく 【ビデオを通して子どもの成長を考える会を通して】 ・子どもの様子をビデオにおさめ、保護者に子ども達の成長していく様子を具体的に知らせる	・こども園体験の案内を各家庭に配布し、体験に参加できる日を知らせて頂く ・その日一日はお母さん(お父さん)先生として子どもと一緒に過ごしたり保育者の手伝いをしてもらったりする ・発達記録表を基に話し合い・懇談の時間を設け、子どもの理解をお互いに深め、今後の子育てを考えていく ・期間中に、こども園体験に参加出来ない方は、時間を設け懇談を行う ・子ども達の普段の様子をビデオにおさめ編集し保護者の方に見て頂くことで、園での様子を見たり、その年齢の発達を知らせたりしていく	・8月～12月の間 ・5歳児は希望者にのみ行き、8月に個人懇談を行う。 ・1歳児は10月に3日間の体験日を設けて行う。 ・年1回(1月に実施予定)	(8) (9) ○	・『こども園体験』は計93名の保護者の方の参加があった。園での様子を見てもらったり、発達記録表を基に個別に懇談を行ったことで、保育士は家庭の様子や日頃の悩みが分かった。それと同時に、保護者は我が子の成長を感じることが出来た。 ・5歳児が8月に個人懇談を行ったことで、小学校へ向けての話や心配事を保護者の方と共有することが出来、よかった。
	地域子育て家庭への支援の充実を図ります	(10) (11) (12) 【子育て支援広場の開催】 ・子育て支援広場『岡保なかよし広場』を開催する。  【おいでおいでこども園・保護者の育児相談の場を設ける】 ・『おいでおいでこども園』(未就園児の体験入園)を行う ・未就園児に自由にこども園に来て頂いて、子ども達の様子を見てもらったり、保護者の方と日頃の育児について保育者と話をしたりする。	・『岡保なかよし広場』を、福井市広報【スマイルサポート通信】に載せたり、HPに載せて参加を呼びかける ・同年齢の子どもをもつ保護者同士の交流をもったり、歌を歌ったり遊んだり、子どもと一緒に楽しむ時間を提供できるようにしていく ・『おいでおいでこども園』を希望する人は、2～3日前に電話で申し込んでもらう ・園児と一緒に、園庭でどろんこ遊びを楽しむ ・日頃の子育ての悩みを聞いたりアドバイスをしたりする	・月1回 ・年間を通して	(10) (11) ○ (12)	・今年度は『岡保なかよし広場』を8月から毎月行い、毎回2～3人の親子が参加して、保護者同士交流をもつことが出来た。講師の先生を招いてベビーマッサージを行ったり、栄養士による離乳食試食会を行うなど、コロナ禍の中、出来る範囲で行った。参加した保護者の方からは子育て支援の場があることが好評だった。 ・なかよし広場の参加が主で、『おいでおいで』を希望する方は少なかった。来られた方は「自然の中で遊んでいる環境がいいですね」と言ってくれた。
III 多様な連携と協働を進めます	子育て・子育て支援のネットワークの中で認定こども園、保育所等の役割を發揮します	(13) 【保健センターや福井市の支援事業実施関係機関と連携します】 ・健診や幼児相談会を通じて、保健センターとの連携を図る。 ・気がかりな子に対しては、各関係機関との連携を図る	・1歳半・3歳児健診への保護者の方の参加の推進や情報提供を行う ・各機関と連携しながら、子ども達が健やかに成長していけるように、援助の仕方を教えてもらったり実践したりしていく ・気がかりな子に対しては、療育センター・特殊教育センター・平谷クリニックなどと連携し、機関・保護者の方と共に、情報を共有しながら支援を進めていけるようにする	・年間を通して	(13) ○	・健診時、保健センターとの連携がとれ、子どもの発達について保護者の方と共通理解が出来た事がよかった。 ・各専門機関や保育所等訪問支援員と協力して、保護者との情報を交換することが出来た。
		(14) 【岡保地域を基盤とした各施設との交流】 ・各施設との親睦を深め、それぞれの良さを認め合い支援の充実を図る (児童養護施設) 福井市ほほえみの郷との交流・・・花野谷町 (障害者福祉施設) あげぼの園との交流・・・河水町 (介護老人福祉施設) 山翠苑との交流・・・堅達町 岡保きらめきとの交流・・・曾万布町	・『ほほえみの郷』の児童を受け入れ、保育していく。その際、職員の方との連絡を密にとり、子どもの対応について連携していく ・園児が『あげぼの園』に出向き、通園している方に陶芸の仕方を教えてもらったり、おやつをパンを購入したりして交流をもつ ・園児が『山翠苑』を訪問し、入所しているおじいちゃん・おばあちゃんの前で、歌をうたったり、踊りを踊ったり、一緒に手遊びをしたりして触れ合いの時間を持ち、交流をもつ ・『岡保きらめき』の入所者の方に園に来てもらい、掃除や洗濯などのお手伝いをして頂く。曾万布町へ散歩に出かけたり、きらめきを訪問しても掘りなどに参加し、その都度触れ合いの時間を持ち交流する	・園児の受け入れ ・陶芸教室・おやつをパンの購入 ・年1回 ・週2回(火曜・木曜) ・もちつき会など園行事に招待 ・きらめきのいも掘りに参加	(14) △	・あげぼの園でおやつをパンを購入したり、陶芸を教えてもらったりと、交流がもてた。 ・今年は山翠苑へは感染症が流行し行けなかったが、岡保きらめきへはじゃがいも掘りに出かけたり、きらめきさんが園からお願いした縫物やごみ箱づくりを施設でして頂いたりすることでつながりを持った。
		(15) 【小学校との連携】 ・岡保小学校と園児との交流 ・家庭・地域・学校協議会に園長が参加する	・岡保小学校の運動会の競技と一緒に参加する ・小学1.2年生の活動に招待され、一緒に楽しんだり、年長児が小学校の雰囲気を感じたりする ・地域の教育・保育について、こども園・小学校・地域の代表が話し合い、協力していけるようにする	・年3～4回 ・年3回	(15) ○	・小学校の運動会を見学して、1年生の様子を見たり、『おもちゃづくり』に招待してもらい、1年生と交流をもつことができた。
	(16) 【地域活動拠点としての場づくり】 ・子育てすまいるサポート通信を配布する。	・岡保こども園の保護者の人たちと一緒に菓子作りなどを行う ・福井市子育てすまいるサポート通信を、在園児の弟妹に渡し、生かしてもらおう	・年間を通して	(16) ○	・お弁当袋づくりは、役員さんを中心にお母さん方が積極的に参加して下さり良かった。クリスマスのはら板作りはコロナの感染予防のため、役員さんのみの参加で行ったが、形に残るキーホルダーが好評だった。	
地域の教育・保育機能を強化します	(17) 【地域の実情の把握、子育て家庭を支援する資源や連携の充実】 ・子どもについての相互理解を図るため、放課後児童クラブと連携していく	・岡保放課後児童クラブで開催する行事へ参加する		(17) ×	・今現在、小学校との連携はあるが児童クラブとは、あまり連携出来ていない。	
IV 子育て文化を育みます	子育てへの関心を高めます	(18)(19) 【子どもと地域の人々との接点づくり】 ・世代間交流・異年齢児との交流の推進 ・保護者奉仕活動・・・保護者・地域との人々と共に、園庭・里山整備 ・こども園の行事・園開放による地域の子どものふれあいの提供 岡保なかよし広場・おいでおいでこども園 人形劇の観劇(夏休み中) ・職場体験・ボランティアの受け入れ 社会福祉協議会からのサマーボランティア 自主ボランティア ・実習生の受け入れ	・おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に遊んだり、子どもたち(孫)と楽しい時間を過ごす ・子どもが遊ぶ園庭や里山の整備を共に行うことで、こども園での遊びの理解を深める ・子どもの喜ぶ様子を感じ、子育てへの関心を高める ・岡保地区で行われる体育祭や夏祭りに積極的に参加し、園児を日頃温かく見守ってくださっている地域の方に対して感謝の気持ちを伝える ・人形劇に小学校の児童を招待し一緒に楽しむ ・地域の子育て支援の場として、年間を通していつでもこども園を開放し、どろんこ遊びの場・交流の場を提供する ・サマーボランティア、実習などを積極的に受け入れ、子どもたちが色々な人たちとの触れ合いを持てるようにする ・子どもの成長・発達を、一緒に遊ぶことで感じたり、保育者の仕事の内容を知ったりし、社会人としての責任を感じる	・年間を通して ・年3回 ・年間を通して  ・年間を通して 中学生・高校生・社会人、 男性女性を問わず受け入れる	(18) (19) △	・おじいちゃんおばあちゃんに園に来て頂き、孫の成長を見てもらうことで楽しんでもらえる機会が持てた。 ・地域の夏祭りや体育祭が中止となり、元気な園児の姿を見て頂く機会が少なかったため、残念だった。 ・実習生は2名、ボランティア・自主ボランティアは、年間を通して4日間 4名の高校生・大学生・社会人を受け入れた。例年よりも機会は少なかったが、いろんな世代の方と交流をもつことが出来た。
	子育て文化につながる活動を広げます	(21) 【子育て支援の開発や普及の取組み】 ・評議員会を設置して、園の実態を伝え、園内の様子や経営状況を知ってもらう ・公民館との連携を深め、お互いに共通理解し互いの要望に対応していく	・評議員会を設置して、園の実態を伝え、園内の様子や経営状況を知ってもらう ・公民館との連携を深め、お互いに共通理解し互いの要望に対応していく	・必要に応じて	(21) ○	

V 安心して子どもを 生み育て る支援づくりを 進めます	これからの乳 幼児の教育・ 保育について 研究を進めま す	(22) 【こども園の機能・役割について】	・子どもたちは、一日のうちの8時間～10時間を園で過ごしているという実態を深く受け止め、日々職員は勉強会を行い質の向上に努める ・子どもの保育だけでなく、一人ひとりの保護者の話にも耳を傾けて、保護者の思いを知り、親育てにも努める	・年間を通して	(22) ○	・保育の悩みや保護者の方の悩みついて、屋礼や園内研修で話し合い意見を出し合ったり、問題が生じた時には改善に努めたりすることが出来た。 地域の園として、地域の皆様に愛される存在でいようと心がけている。
	社会連帯に よる子育て 支援の仕組 みづくりを 進めます	(24) 【保育・子育て支援の仕組みづくりをすすめる】 ・園長が会議や研修で聞いてきたことの報告を受ける ・アクションプログラムの内容を毎年、園長・副園長で話し合う ・小学校・地域（公民館）・児童クラブとの連携をとり、子ども達が安心して過ごせるようにする	・園長が会議や研修で聞いてきたことの報告を受ける ・アクションプログラムの内容を毎年、園長・副園長で話し合う ・小学校・地域（公民館）・児童クラブとの連携をとり、子ども達が安心して過ごせるようにする		(24) ○	・コロナ禍で研修自体が少なかったが、研修後の報告を職員会議で月に1度は行うようにした。

《園での取組み》 24のアクションから、取り組む内容(番号)と具体的な取組みを記載する。

《達成度》 ◎：当初計画していた目標を大きく上回り、優れた成果を上げた。 ○：計画どおりに取組み、概ね目標を達成することができた。 △：不足する部分や問題があった。 ×：目標を達成することができなかった。

《備考》 達成度についての特記事項や次年度に引き継ぎたいことなどを記載する。